

令和 7 年 度

事 業 報 告 書

目 次

社会福祉法人 狛江福祉会	1 ページ
特別養護老人ホーム こまえ苑	10 ページ
高齢者デイサービスセンター こまえ苑 ..	21 ページ
地域包括支援センター こまえ苑	29 ページ
居宅介護支援事業所 こまえ苑	39 ページ
【参考資料】決算の推移	41 ページ

社会福祉法人 狛江福祉会



1. 総括

(はじめに)

こまえ苑は令和7年7月に開設30周年を迎え、記念式典の開催や利用者へ祝膳の提供など節目となる行事を無事に執り行うことができました。

ここ数年の物価高騰等で厳しい状況下ではありますが、これまで大きな事故もなく経営状況は安定し、介護人財不足といわれている中で、職員の離職も少なく令和7年6月に特定技能職員の採用もあり年齢バランスも保たれています。特定技能職員は、利用者や職員からの評判も良く期待以上の成果を上げていることから、長くこまえ苑で働けるよう介護福祉士の資格取得に向けて支援してまいります。

第2期中長期計画の進捗については、計画に基づき感染症対策の強化、高齢者虐待防止、研修の実施、感染症や水害、震災の自然災害が発生した場合の業務継続計画（以下「BCP」という。）に基づいた研修・訓練の実施などを継続して取り組みました。また、大規模な災害発生時に被災地で福祉的な支援活動を行うDWAT（災害派遣福祉チーム）に職員3人を登録したことで、地域における公益的な取組みとBCPの訓練に活かしていく流れができました。

人財育成については、研修内容や研修方法を検討した結果、それぞれの職場、職種に応じ動画を活用した研修を令和8年度から実施することにしました。

生産性向上への取組としては、東京都の補助事業を活用し、特養において介護職員の腰痛予防対策として介護リフトと記録等の業務効率化、介護の質の向上を目指しタブレットを導入しました。

高齢者虐待防止への取組については、苑全体の会議のほか、各課において研修の実施や東京都や狛江市主催の研修会に参加することで、高齢者虐待の防止、養護者に対する支援等の重要性に関する理解を深めることができました。

感染症については、特養で4月から5月と9月に新型コロナの感染がありましたが、例年流行する秋から冬にかけては感染症の発生はありませんでした。

コロナ禍でしばらく休止していたボランティア交流会、狛江市文化振興事業団の「音楽の街―狛江」事業によるコンサートもふれあいホールで開催することができ、少しずつですがコロナ前の事業を再開することができました。

各事業の稼働率などについては、特養（ショートステイ含む。）は97.1%（前年度比+0.8ポイント）となり、感染症の発生によるショートステイの一時受入れ停止がありましたが、特養の入所待機者を常時確保できていたことで稼働率を上昇させることができました。

通所介護については、前年度を下回り80.7%（前年度比△2.5ポイント）となりましたが、第3・4半期以降は、定員を満し待機者が発生していることから令和8年度は回復する見込みです。

ホームヘルプ事業については、年間89件の新規依頼を受け、身体介護は目標値の5,000時間/年を大幅に超える約5,930時間（前年度比+803時間）となり、令和3年度の2倍近い件数で過去最高となりました。

地域包括支援センター事業については、相談件数は9,696件（前年度比+459件）と3年連続で9千件を超え、予防プラン作成は2,946件（前年度比+398件）となりました。ふらっとなんぶでの個別訪問は職員の退職により1人欠員の期間が1か月ありましたが、前年度とほぼ同じ801件（前年度比+6件）、うち面会できた件数も550件（前年度比△4件）となりました。

居宅介護支援事業については、職員数の減に伴い介護報酬が減少しています。平均担当件数は33件の目標値を若干下回り32.03件となりましたが、第3、第4四半期の後期は35.00件となり目標を上回る状況でした。

水道道路の拡幅に伴う市有地にある駐車場、駐輪場用地の買収は、具体的な時期は示されていませんが、狛江市に対し代替地、財源の確保について協議を進めてまいります。

2. 理事会・評議員会の開催状況

理事会・評議員会の開催年月日、議題等は次のとおり。

開催年月日		議 題 ・ 報 告 事 項 等
第一回 理事会	令和7年 6月10日	(1) 報告事項 報告第1号 令和6年度苦情解決第三者委員取扱いの苦情について 同第2号 介護老人福祉施設等に係る福祉サービス第三者評価受審結果について (2) 議 案 議案第1号 令和6年度事業報告について 同第2号 令和6年度財務報告について 同第3号 社会福祉法人狛江福祉会定時評議員会の招集事項の決定について 同第4号 社会福祉法人狛江福祉会評議員候補者推薦について (3) 協議事項 ① 次回理事会の開催日程について (4) その他
第一回 評議員会	令和7年 6月26日	(1) 報告事項 報告第1号 令和6年度事業報告について (2) 議 案 議案第1号 令和6年度財務報告について 同第2号 社会福祉法人狛江福祉会次期役員選任について (3) 協議事項 ① 次回評議員会の開催日程について (4) その他
第二回 理事会	令和7年 6月26日	(1) 報告事項 なし (2) 議 案 議案第5号 理事長の互選、理事長の職務代理及び業務執行理事選任について 同第6号 苦情解決第三者委員の選任について 同第7号 社会福祉法人狛江福祉会評議員選任・解任委員について (3) 協議事項 ① 次回理事会の開催日程について (4) その他
第三回 理事会	令和7年 10月30日	(1) 報告事項 報告第3号 令和7年度上半期事業の状況について (2) 議 案 議案第8号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑就業規則一部改正について 同第9号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑嘱託職員・臨時職員・パートタイム職員に関する規程一部改正について 同第10号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑育児・介護休業等に関する規則一部改正について 同第11号 社会福祉法人狛江福祉会経理規程一部改正について 同第12号 令和7年度補正予算（第1号）について (3) 協議事項

		① 次回理事会の開催日程について (4) その他
第四回 理事会	令和8年 1月27日	(1) 報告事項 報告第4号 監事監査の結果について (2) 議案 議案第13号 令和8年度の主要な業務契約について 同第14号 社会福祉法人狛江福祉会福祉振興基金の設置及び管理に関する規程一部改正について 同第15号 地域交流基金積立金の一部取り崩しについて (3) 協議事項 ① 次回理事会の開催日程について (4) その他
第五回 理事会	令和8年 3月31日	(1) 報告事項 報告第5号 令和7年度下半期事業の状況について (2) 議案 議案第16号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑給与規程の一部改正について 同第17号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑再雇用職員就業規則の一部改正について 同第18号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑嘱託職員・臨時職員・パートタイム職員に関する規程一部改正について 同第19号 令和7年度補正予算（第2号）について 同第20号 令和8年度事業計画について 同第21号 令和8年度予算について (3) 協議事項 ① 次回理事会の開催日程について (4) その他

3. 共通部門

(1) 職員の配置状況

令和8年3月31日現在

施設 職 種	特別養護 老人ホーム	高齢者デイ サービスセンター	包括支援課	居宅介護 支援事業所	計
施設長	1				1
事務局長	1				1
事務員	1 (1)	(1)	(1)		1 (3)
生活相談員	1	2	1		4
介護職員	25 (17)	8 (9)			33 (26)
保健師			1		1
看護職員	4 (2)	1 (2)	3		8 (4)
管理栄養士	1				1
主任介護支援専門員			1	2 (1)	3 (1)
介護支援専門員	(1)		(3)	2	2 (4)
社会福祉士			1		1
精神保健福祉士			1		1

機能訓練指導員	1				1
サービス提供責任者		4 (2)			4 (2)
ヘルパー		(22)			(22)
運 転 手	(1)	(5)			(6)
医 師	(3)				(3)
居 室 整 備	(2)				(2)
調 理 員	委 託				
計	35 (27)	15 (41)	8 (4)	4 (1)	62 (73)

注：（ ）内は非正規職員の別掲。

(2) 職員数の推移

(年度末現在 単位：人)

年度	特別養護 老人ホーム	高齢者デイ サービスセンター	包括支援課	居宅介護 支援事業所	計
令和7年度	35 (27)	15 (41)	8 (4)	4 (1)	62 (73)
令和6年度	36 (26)	15 (46)	7 (4)	4 (3)	62 (79)
令和5年度	36 (26)	13 (44)	6 (4)	4 (2)	59 (76)
令和4年度	36 (25)	13 (43)	7 (3)	4 (2)	60 (73)
令和3年度	37 (25)	16 (37)	6 (4)	5 (1)	64 (67)

注：（ ）内は非正規職員の別掲

(3) 正規職員採用・退職状況

【採 用】

日 付	部 署	職 種	人 数	備 考
令和7年6月	通所サービス課	介護職員	1	
令和7年7月	通所サービス課	介護職員	1	
令和7年11月	施設サービス課	看護職員	1	
令和8年2月	施設サービス課	介護職員	1	

【退 職】

日 付	部 署	職 種	人 数	備 考
令和7年6月	通所サービス課	介護職員	1	自己都合
令和7年6月	施設サービス課	介護職員	1	自己都合
令和8年3月	施設サービス課	看護職員	1	定年

(4) 職員研修実施状況

1) 施設外研修

①東京都及び関係機関主催

名 称 等	開催日程	人数
東京都介護支援専門員専門研修課程	9月～3月	2
東京都介護職員によるたんの吸引等の実施のための研修	5月～10月	4
東京都地域包括支援センター職員研修（初任者研修）	6月	1
東京都主任介護支援専門員研修	9月～1月	1
高次能機能障害者相談支援研修会	8月～9月	1
居宅介護支援事業所管理者向けマネジメント支援研修	10月～11月	1

擁護者による高齢者虐待対応研修（基礎研修）	5月	1
区市町村職員等高齢者権利擁護研修	10月～3月	2
認知症地域支援推進員研修	8月	3
介護サービス事業管理者等高齢者権利擁護研修	12月～2月	2
福祉職員キャリアパス対応生涯研修【管理職員研修】	12月	1
介護サービス事業管理者等に対する認知症のある人の意思決定支援研修	12月～1月	3
東京都キャラバンメイト養成研修	2月	1
認知症介護実践者研修	3月～5月	1

②東京都社会福祉協議会関係機関主催

名 称 等	開催日程	人数
東京DWAT登録研修会	8月～10月	3
多職種連携で適切な排泄ケアを提供するために	11月	1
熊本地震・風水害対応の教訓から学ぶ【備え】と【初動対応】	12月	1
特別養護老人ホーム経営実態調査フォローアップ研修	12月～3月	2

③各種研修会等

名 称 等	開催日程	人数
統合失調症、発達障害、パーソナリティ障害という診断のある利用者の支援・・・診断名や見かけにまどわされない対応	6月～7月	3
東京都認知症地域対応力向上研修	9月	1
一般介護予防事業研修会	8月～9月	1
計画相談ならではの視点で考えるおやこの関係	9月	1
ACP育み人研修	10月～11月	1
パーキンソン病の理解とケアマネジメント	11月	1
市区町村介護予防事業担当者向け研修 通いの場スキルアップ研修	6月～12月	1
難病支援の考え方と支援の視点 難病ケアマネジメントの過程	2月～3月	1

④施設内研修 事業別に実施のため各事業において記載

(5) 防災関係

消防署の指導による消防訓練を下記のとおり実施した。

回数	実 施 日	訓 練 内 容
1	令和7年4月23日	部分訓練、2・3階のみの避難訓練（夜間想定）
2	令和7年5月16日	部分訓練、新人防災講習訓練
3	令和7年6月27日	部分訓練、通所介護事業避難訓練
4	令和7年7月23日	部分訓練、火災時の宿直に対する夜間通報訓練
5	令和7年8月29日	部分訓練、自衛消防訓練審査会自主訓練
6	令和7年9月24日	部分訓練、特養 消火器・消火栓操作訓練
7	令和7年10月22日	消火訓練、岩戸町会合同震災訓練実施
8	令和7年11月26日	部分訓練、宿直に対する機器取り扱い訓練
9	令和7年12月24日	部分訓練、特養に対する夜間通報訓練
10	令和8年1月28日	消火訓練、通所介護事業避難訓練
11	令和8年2月25日	部分訓練、火災時の宿直に対する夜間通報訓練
12	令和8年3月25日	部分訓練、特養 消火器・消火栓操作訓練

(6) 地域交流事業・広報活動

事 業	内 容
地域交流事業	地域向けに1回食事会を実施した。
こまえ苑広報委員会・広報誌の発行など	5月・8月・11月・1月という年間の発行計画に基づき毎号900部発行することができた。今年度も新型コロナ禍により地域との交流ができずこれらを記事にすることができなかったため、施設内で行われたイベントを積極的に掲載して情報発信を行った。 また、ホームページの充実については、広報委員会が中心となり日々の活動・行事の紹介等を更新することにより充実した内容になった。

1) 実習生受入れ状況

学校・施設名	年 月	人数 (1日)	日数	備考
慈恵第三看護専門学校	令和7年4月	2	1	特養
慈恵会医科大学看護学科	令和7年5月～6月	2×3	7×3	特養5日+デイ
國學院大学教員免許介護等体験	令和7年10月	1	5	特養3日+デイ2日
狛江第四中学校職場体験	令和7年6月	3	3	デイ
狛江第二中学校職場体験	令和7年9月	3	3	デイ
喜多見中学校職場体験	令和7年9月	3	3	デイ
國學院大学教員免許介護等体験	令和7年10月	2	1	デイ
狛江第三中学校職場体験	令和7年11月	3	3	デイ

狛江第一中学校職場体験	令和7年11月	3	3	デイ
慈恵第三看護専門学校	令和7年12月～1月	6	12	デイ
慈恵第三看護専門学校	令和7年5月～9月	3	3	包括
東京都介護支援専門員実務研修実習	令和7年7月 令和8年2月	1 1	2 2	居宅

※上記以外にも、随時実習生を受け入れている。

2) ボランティア事業

狛江市市民活動支援センターが開催した、まちボラ（夏期体験ボランティア）の受け入れ先として、特養とデイサービスの傾聴ボランティア等の受け入れを実施した。また、コロナ禍で中止していたボランティア交流会を実施した。今年度の新規ボランティア登録は8人で、活動実績は526回となった。

事業	内容
狛江市市民活動支援センターとの連携	ボランティア募集記事の掲載依頼 まちボラ（夏期体験ボランティア）の受け入れ
ボランティアの募集	地域包括支援センターの協力や、ホームページの掲載により新規のボランティア登録をすることができた
ボランティア交流会	他のボランティアとの交流を目的とした交流会を実施した
ボランティア会議の開催	奇数月第3金曜日に実施

ボランティア活動実績

（単位：回）

年度	洗濯	特養喫茶	デイサービス	園芸	計
令和7年度	91	219	103	113	526
令和6年度	87	177	206	109	579
令和5年度	131	90	177	209	607
令和4年度	98	0	0	255	353
令和3年度	0	0	0	29	29

4. 総務課

(1) 総務係

重点目標や目標に掲げた内容について、介護職員の退職者が発生したが新規採用した特定技能外国人の定着により適正配置することができた。来年度に向け特定技能外国人1人を採用できた。また、予定通りの修繕と各種補助金を活用した施設整備を実施し、今年度も目標を超える収支差額を確保できた。

1	目標	法人の使命・経営の理念・ビジョン及び基本方針を理解し、これに基づいた業務基盤の整備・確立を目指す
	評価	① 将来の設備等の更新に備え計画通り施設・設備整備等積立金を8,458万円積立てた。 ② 職員個々の研修派遣計画を立て、特定技能外国人3人に指導職員を付けきめ細やかな指導と、3ヵ月ごとに管理組合担当者含め対面にて面談を実施した。 ③ 人財紹介会社等に頼らない人財採用活動を継続でき、正規職員の離職率（定年退職者は除く）は3.2%となり、来年度の外国人特定技能実習生1人を採用した。 ④ 新型コロナウイルス、レジオネラ肺炎罹患時に、ホームページでリアルタイムに情報を公開した。 ⑤ 老朽化対策として、デイサービスの送迎車両2台入れ替えと西側エレベーターの改修を実施した。また、空調設備の改修は引き続き使用できることから、補助申請は行わなかった。 ⑥ 経営支援補助金、燃料費・物価高騰対策支援補助金、介護職員研修受講費補助金・介護職員介護支援専門員居住支援特別手当補助金・居宅介護支援事業所事務職員雇用支援補助金・介護支援専門員法定研修受講料補助等を申請した。また、給与規程等改正にともない、キャリアアップ助成金申請の計画書を東京労働局に提出した。
2	目標	効率性・費用対効果を念頭においた課題検討と改善を目指す
	評価	① 特養に次世代介護機器導入促進事業補助金を活用し介護リフトを導入、デジタル機器導入促進支援事業を活用しタブレット（システム含む）を導入した。 ② ウェブサイトを積極的に活用して安価な商品を精査することにより経費節減につなげた。また、中東地域での紛争が令和8年2月末に勃発したため、欠品と値上げ対策を考慮して3月に必要物品を確保した。 ③ 人事異動により効果的な人員配置ができた。 ④ 自主研修制度により、社会福祉士試験に1人合格、介護福祉士試験に2人合格、介護職員実務者研修を2人修了、介護職員初任者研修を1人修了した。

(2) 栄養係

1	目標	健康・栄養状態の維持、向上
	評価	① 一人ひとりの摂食嚥下状態に合わせた食事内容、食事形態で提供した。栄養スクリーニング・モニタリング表を多職種で共有し、多角的視点で改善策を見出した。 ② 29人に対して療養食を提供し、疾病の悪化進行を緩やかにした。 ③ 摂食嚥下不良により通常の食事量を喫食することが困難な利用者に対して、食事を濃厚流動食や栄養補助食品等に置き換えた。
2	目標	食事を通して生きる喜びを感じてもらう
	評価	① 行事食やバイキング等を実施し、献立はできるだけその季節が感じられるように工夫した。食材の切り方や彩りを考慮し、見た目や食感に変化を持たせるように調理した。 ② 通常の食事を食べることが困難になった方でも、最期まで好きなものを楽しめるように、6人の方にお楽しみ食（看取り食）を提供した。
3	目標	衛生面・安全面の向上、適正なコスト管理、在庫管理
	評価	① 厨房内は「大量調理施設衛生管理マニュアル」に沿った衛生管理を行った。あわせて外部の衛生監査機関のチェックを受けて作業内容の改善と適切な備品の整備、修繕をして安全な食事提供に努めた。残菜・残食量を把握し、食材費、廃棄費用のコストの削減に努めた。 ② 行政やフードバンクの備蓄品寄贈を活用し、給食として提供することで食材費削減に繋がった。 ③ 将来厨房の人材不足や経費高騰に対応するため、朝食の完調品（完全調理済み食品）の導入を検討し、試験的に3月中旬から取り入れ、今後人員配置や作業工程、完調品の見直しを行っていく予定である。
4	目標	食事の要望や意見を取り入れ、満足度を向上させる
	評価	① 食事に関する様々な意見を聞き取り、献立や食事の提供時に反映させた。喫食時には、直接利用者の様子を見たり話を聞いたりする事により、要望に対して迅速に対応することができた。 ② 食事の満足度調査は聞き取り方式で行った。

1) 栄養の目標（栄養摂取基準）

利用者ごとに個別に設定した給与栄養目標量の平均値に安全率10%を考慮し、こまえ苑の給食栄養目標量とした。

以下には、令和7年度の栄養摂取基準及び栄養出納の平均量を示す。

区分	エネルギー	蛋白質	蛋白質エネルギー比率	脂質エネルギー比率	Ca	鉄	ビタミンA	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	食物繊維
単位	kcal	g	%	%	mg	mg	μgER	mg	mg	mg	g
必要量	1,400	60.0	15～20	15～25	600	6.0	450	0.80	1.00	85	15.0
提供量	1,395	58.7	16.8	26.8	592	6.1	815	0.84	0.93	88	14.0

5. 特別養護老人ホーム（ショートステイ含む）

令和7年度の特養＋ショートステイの全体の稼働率は97.1%（令和6年度96.3%）と安定した稼働率を維持することができました。しかし、ショートステイの稼働率は前年度の94.1%から89.0%へ減少しました。これは、9月の新型コロナウイルス感染症が2階、3階同時に発生したため一時的に受け入れを中止せざるを得なかった事が原因です。入退所状況は20人でした。平均年齢は88.2歳（令和6年度86.2歳）と増加し、在苑期間も2年未満の方が約半数となっており、入れ替わりが多い状況が続いています。平均年齢の増加、医療的ケアの必要な方の受け入れのニーズなど今後もこの傾向は続くと考えられ、それらに対応できる職員のスキルアップも必要となります。

人財の確保、定着、育成に関しては、令和7年度から特定技能職員を採用し他職員への好影響となっています。部署内での研修も計画的に行い質の維持、向上を目指しました。

生産性向上の取り組みとしては、次世代介護機器活用セミナーの東京都介護現場改革促進等事業アドバンスセミナーに参加し、介護用リフトの活用の取り組みをしました。このような人財不足解消に向けたICT機器の活用を今後も取り組んでいきます。

（1）重点目標

全職種共通

1	目標	BCP（事業継続計画）の浸透を目指す
	評価	① 担当者4人（各フロア2人）配置を継続し、自然災害に関するBCPの説明を行い職員への周知を図った。 ② 自然災害を想定し、苑全体及び自部署での研修、訓練を計画通り2回実施することができた。 ③ BCP（感染症）の担当者4人（各フロア2人）の配置を継続した。 ④ 担当者を中心に感染症に関する研修・訓練を実施した。
2	目標	「看取り介護」「痰の吸引」「口腔ケア」の実施内容の質の向上を目指す
	評価	① 看取りに関する研修及びお別れ会は計画通り実施できた。しかし、デスカンファレンスに関しては意見が集まりにくく担当者間の周知にとどまった。指針見直しにも着手したが、まとめきることは出来なかった。 ② 職員による痰の吸引業務は夜間を中心に実施している。研修の修了者は新人職員を除きほぼ全員となった。しかし、吸引の必要な方が減少する時期もあり、定期的に研修を行うなど手技を維持していく必要がある。 ③ 新たな取り組みとして口腔衛生評価を開始した。各職員が毎月評価を行い、継続的に実施できている。
3	目標	職員体制の安定した質の高い介護が提供できる体制づくり
	評価	① 新規採用者へのマニュアルを使用したOJTは継続できている。業務内容に沿ったサポート体制が取れるよう勤務の調整も行った。指導期間の定期的な振り返りは実施できたが、1人立ち後の面談が不十分となっていることは課題となっている。 ② マニュアルは大きな改定はなかった。しかし、年度末に排泄ケアの手順

		やタブレット導入など業務内容の大きな変更が生じているため今後修正に取り組む必要性がある。 ③ 虐待防止の研修は年2回計画通り実施した。動画や事件例などを基により具体的なイメージができるよう取組んだ。 ④ 認知症ケアについて計画通り研修を年1回実施した。 ⑤ 利用者の口腔機能評価を月1回行い、診察等の必要があれば歯科医師等へ報告する体制が整えられている。 ⑥ 職員配置転換は様々な状況があり実施に至らなかった。フロア間交流は感染症への懸念が抜けきれず花火大会、福祉大会参加、岩戸お祭り見学等、屋外にて実施できた行事のみに限られた。
4	目標	医療的ケアの必要な方の受け入れを継続していく。
	評価	① 既入所者に対して事故なく実施できている。細かいケアの見直し等も定期的に話し合い実施している。 ② 褥瘡についての研修は看護職員が講師となり実施している。感染症についてもガウンテクニック等同様に看護職員による定期的なレクチャーを行い、全職員への周知を徹底した。
5	目標	支援を継続できるための意識を改革していく
	評価	① ICT機器の運用における定期的な機器類のメンテナンス、職員間での情報発信、スマートフォン使用のさらなる啓発実施、浸透を図った。結果として医務への利用者情報の伝達手段としての活用頻度が向上した。 ② 新たに夜喫茶として「居酒屋いちょう」を毎月第三木曜日に立ち上げた。新たな利用者の憩いの場として楽しんでいただいた。 ③ 「事故防止」「虐待防止」「身体拘束適正化」の研修についてオンラインでの研修を実施し、全職員への周知を徹底した。 ④ LIFEへの情報提出を継続及びフィードバックの活用については、口腔機能評価を実施し定着している。LIFE入力役割分担については来年度に指導、実施予定。 ⑤ ADL維持加算については未実施であるため来期に検討していく。 ⑥ オムツ費用の見直しでは、製造中止商品の代替品への変更はあえて行わず、現行の商品のみで運用し品目の絞り込みを行った。 ⑦ 腰痛対策の介助方法へのアプローチは、腰痛ベルトの使用啓発、新リフト購入（2階のみ）及び使用の推進を行った。今後も使用の定着を図っていく。

ショートステイ

1	目標	軽度医療的ケアの受け入れ態勢を整える
	評価	① 軽度医療的ケアのある利用者について、医療的知識の勉強会はできなかったが、在宅酸素（2人）とインスリン注射（1人）についてカンファレンスを行い受入れた。その後も継続した利用ができている。
2	目標	支援を継続できるための意識を改革していく

評価	① 入苑時、入浴時に全身観察が行えており、内出血や皮膚剥離の把握ができています。 ② 空床ベッドは70日活用することができた。 ③ 「看取り」の方の受け入れについて検討し、訪問診療のかかりつけ医がおり、家族やサービス担当事業者との話し合いを設け、同意を得た方（2人）を対象に受入れを行っている。1人の方はご逝去される直前までご利用いただけた。
----	--

医務

1	目標	感染症対応の知識を深め、感染症拡大を予防する
	評価	① 研修は2回実施した。東京都から派遣職員による研修も実施しスタンダードプリコーションについて再確認できた。 ② 4月、5月、9月に新型コロナ感染があったが嘱託医と連携し、適切に対応した。
2	目標	看取り介護の継続
	評価	① 看取り介護向上委員会が中心となり研修を2回実施できた。 ② グリーフケアのためのカンファレンスを実施できなかった。
3	目標	「褥瘡ケア」「夜間の介護職員によるたん吸引」の継続
	評価	① 報告・評価ができた。 ② 褥瘡ケア計画書の見直しを3か月毎に実施した。また、褥瘡のある方については1週間ごとに見直しを行った。 ③ 褥瘡内部研修は年1回実施できた。褥瘡形成者は6人いた。感染などなく全員改善（改善傾向）された。
4	目標	看護業務の見直しをする
	評価	① 手袋・予防衣など医療用品の購入は低コストで抑えることができた。 ② 業務マニュアルを作成した。

(2) 利用者数・平均年齢

令和8年3月31日現在（単位：人・歳）

年度	男		女		男女	
	人数	平均年齢	人数	平均年齢	人数	平均年齢
令和7年度	21	85	60	86.9	81	88.2
令和6年度	23	84.5	59	86.9	82	86.2
令和5年度	22	82.7	55	87.3	77	86.0
令和4年度	22	83.9	58	87.2	80	86.3
令和3年度	19	83.1	59	87.1	78	86.1

(3) 在苑期間の状況

令和8年3月31日現在（単位：人）

在苑期間	男	女	計	構成比（%）
～1年未満	4	11	15	18.5
1年以上～2年未満	7	16	23	28.4

2年以上～3年未満	4	8	12	14.8
3年以上～4年未満	2	6	8	9.9
4年以上～5年未満	0	4	4	4.9
5年以上～6年未満	2	2	4	4.9
6年以上～7年未満	1	3	4	4.9
7年以上～8年未満	0	1	1	1.2
8年以上～9年未満	0	0	0	0.0
9年以上～10年未満	0	3	3	3.7
10年以上	1	6	7	8.6
合計	21	60	81	100.0

(4) 退所者の状況

令和7年度

性別	年齢	退所年月日	在苑期間		退所理由
女	97歳	R7.4.9	3年	10か月	死亡
男	85歳	R7.4.28	2年	3か月	死亡
男	78歳	R7.5.8	1年	5か月	死亡
男	95歳	R7.5.9	0年	6か月	死亡
男	92歳	R7.6.14	4年	6か月	死亡
女	88歳	R7.6.19	7年	6か月	死亡
女	91歳	R7.6.22	7年	3か月	死亡
女	91歳	R7.7.16	9年	3か月	死亡
女	70歳	R7.7.27	1年	3か月	死亡
男	95歳	R7.9.12	0年	10か月	死亡
男	93歳	R7.9.25	9年	11か月	死亡
女	87歳	R7.9.27	1年	0か月	その他医療機関
女	93歳	R7.9.29	6年	11か月	死亡
男	82歳	R7.11.8	0年	1か月	死亡
女	80歳	R7.12.9	2年	9か月	死亡
女	82歳	R7.12.20	2年	5か月	死亡
女	83歳	R8.1.12	0年	0か月	死亡
女	95歳	R8.2.12	0年	7か月	死亡
女	86歳	R8.3.8	2年	4か月	死亡
女	98歳	R8.3.25	0年	8か月	死亡
内訳	死亡による退所 19人 (男7人、女12人)				
	入院による退所 1人 (男0人、女1人)				
	居宅へ戻る退所 0人 (男0人、女0人)				
	合 計 20人 (男7人、女13人)				

(5) 入退所者数の状況

(単位：人)

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
人数	20	27	34	24	16

(6) 稼働率

(単位：%)

年度	特養＋ショートステイ		ショートステイ	
	稼働率	前年度比	稼働率	1日平均(人)
令和7年度	97.1	0.8	89.0	5.3
令和6年度	96.3	0.8	94.1	5.6
令和5年度	95.5	▲1.0	84.0	6.7
令和4年度	96.5	▲1.0	88.8	7.1
令和3年度	97.5	1.9	92.5	7.4

注) 令和6年度から特養82床、ショートステイ6床 令和5年度まで特養80床、ショートステイ8床

(7) 看取りの状況

(単位：人)

年度	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
人数	16	18	25	13	13

(8) ADLの状況

1) 要介護度比率

年度末現在 (単位：%)

年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
令和7年度	1.2	2.5	17.3	42.0	37.0
令和6年度	1.2	2.4	15.9	37.8	42.7
令和5年度	2.5	2.5	14.2	42.8	37.6
令和4年度	2.5	1.2	13.7	46.3	36.3
令和3年度	2.6	0.0	19.2	44.9	33.3

2) ADL (日常生活動作) の比率

年度末現在 (単位：%)

年度	J	A	B	C
令和7年度	0	17.3	43.2	39.5
令和6年度	0	17.1	47.5	35.4
令和5年度	1.2	28.5	54.5	15.5
令和4年度	1.2	25.0	52.5	21.3
令和3年度	3.8	23.1	53.9	19.2

分類の基準「障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度)」

ランク	状態
J	何らかの障害等を有するが日常生活はほぼ自立しており、独力で外出する。

A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。
B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドでの生活が主体であるが、座位を保つ。
C	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。

3) 認知症の比率

年度末現在（単位：％）

年度	自立	I	II	III	IV	M
令和7年度	1.2	3.7	12.3	23.5	54.3	4.9
令和6年度	1.2	2.4	14.6	28.0	48.8	4.9
令和5年度	0.0	5.1	22.0	33.7	36.3	2.5
令和4年度	1.2	3.7	15.0	42.5	33.9	3.7
令和3年度	1.3	5.1	21.8	44.9	24.3	2.6

分類の基準「認知症高齢者の日常生活自立度」

基準	状 態
I	何らかの認知障害を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障をきたすような症状・行動や、意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
III	日常生活に支障をきたすような症状・行動や、意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動や、意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

(9) 利用者の日常生活

1) 行事实施状況

開催月日	行事名	内容等
5月2日 ～5日	菖蒲湯 端午の節句	入浴日に合わせて湯船に菖蒲を浮かべ、香りや季節感を味わっていただいた。端午の節句では兜や季節にちなんだ飾りとともにレクリエーションを楽しんだ。
6月18日	衣類販売	外出による買物が難しい利用者に対し、苑内で外部委託による販売所を設け買い物を楽しんだ。
7月7日	七夕	各フロアに笹を準備し、願い事を書いた短冊や飾りを下げ「七夕のうた」を歌唱した。

9月3日	敬老会	昼食に祝い膳を提供、午後から各フロアの食堂にてお祝い会。今年の贈答品は「ひざ掛け」「車いす用オーバーテーブル」を選定した。
9月27日	こまえ苑祭り	午前はふれあいホールにてスライドショー、午後は各フロアにて模擬店形式で釣りゲームやスイカ割ゲームなどを実施した。利用者、家族ともに行事を楽しむ時間を過ごしていただいた。
10月15日	花火大会	周辺地域（調布、二子玉川）の花火大会屋上鑑賞の時期に合わせ、苑内駐車場にて吹上花火、線香花火などの鑑賞及び体験を実施。両フロア合同開催として楽しまれた。
11月15日	寿司バイキング	6月の誕生会と共にある食事イベント。6月メニューのジャンルは様々だが、11月は年1回のイベントとして定着している。普段提供されないメニューを楽しまれた。
12月25日	年忘れ クリスマス会 餅つき大会	各フロア別で開催した（特養のイベントとして家族にも定着している）。今年度より午前に餅つき大会を実施。クリスマスの飾りつけやクリスマスをモチーフとした食事を提供した。午後はカラオケや職員によるコスプレ大会、健康体操などの余興を楽しんでいただき大いに盛上がった。
12月23日 ～25日	ゆず湯	今年も入浴日に合わせて湯船にゆずを浮かべ、香りや季節感を味わっていただいた。
1月1日	初詣	今年も外出形式の初詣再開を視野に企画したが感染症流行により実施できなかった。ふれあいホールに模擬神社を設営しフロア別に初詣を実施した（4日まで設置）。昼食には祝い膳を提供した。
2月3日	豆まき	フロアごとに実施した。例年通り豆まきを行い、職員が鬼の扮装をして各居室の練歩きを行った。
2月4日	エリアコンサート	久々の外部委託イベントとして開催した。感染症の流行時期を鑑みフロア別の開催となったが、入替えなどの工夫により音楽や歌の鑑賞を楽しまれた。
3月3日	ひな祭り	例年通りフロアごとにひな人形を飾り、レクリエーションを楽しまれた。
3月27日 ～4月2日	花見	例年の緑道散歩の他、市内のドライブを復活し、お花見を楽しまれた。

2) クラブ活動

種類	開催日	時間
生花クラブ	第2・第4金曜日	10時20分～11時20分
音楽クラブ	毎週木曜日	10時20分～11時20分

3) 散歩・買物・カラオケ・個別外出

事業	内容
買い物	12月度より新たに「いきいき通販」でのネットスーパーによる運用を再開した。
散歩	今年度もご家族の面会再開と共に近隣への散歩を再開した。ただ、職員対応は行事時やベランダ日光浴にとどまった。
カラオケ	出勤人数に余裕がある時に数回開催している。
個別外出	ご家族の面会再開に合わせ時期限定で再開予定だったが企画できず実施できなかった。ごく一部ではあるが家族旅行に行かれる機会が増えている。

4) 理容・美容

種別	実施日	料金	協力機関
理容	毎月1回 第4月曜日	散髪のみ 2,200円 顔剃りのみ 1,200円 セット 2,700円	東京都理容環境衛生 同業組合武蔵調布支部 毎回2～3人
美容	毎月1回 第3木曜日	カット 3,355円 パーマ、マニキュア 10,890円	ディチャーム株式会社 毎回2～3人

<理容・美容実施状況>

(延人数 単位：人)

年度	理容		美容		合計	
	特養	ショートステイ	特養	ショートステイ	特養	ショートステイ
令和7年度	142	0	293	2	435	2
令和6年度	148	2	266	3	414	5
令和5年度	123	3	293	5	416	8
令和4年度	133	4	288	0	421	4
令和3年度	156	—	317	6	473	6

(10) 家族との行事

行事	開催日	参加人数	備考
こまえ苑祭り	9月27日(土)	12家族、19人	感染症対策によりフロア別に 室内で開催
家族懇談会	10月25日(土)	15家族、19人	

(11) 医療と看護

利用者の健康管理とともに、安全で快適な日常生活が送られるよう嘱託医と連携を取りながら看護サービスの充実に努めた。また、家族の意向を重視し、最期を看取るまで悔いのない時間を過ごしていただけるよう配慮した。感染症に対しては、スタンダードプリコーションを徹底し、正しく確実に行った。また、職員も含め発熱者は抗原検査を実施し、施設内に感染症を持ち込まない・拡大させないことに努めた。

1) 健康管理・健診

健康管理・健診	内 容
入苑時健康管理	① 入苑後の嘱託医・歯科衛生士による診察を実施した ② 入苑日より3日間はバイタルチェックを実施した
健康診断 歯科健診	① 6月に健康診断を実施。採血・レントゲン・心電図・尿検査を実施した。 ② 8月に狛江市歯科医師会による歯科健診を実施した。週1～2日、歯科医師往診により通院が困難な利用者の歯科治療を行うことができた。また、口腔ケア指導担当者により口腔衛生についてアドバイスを受け、誤嚥性肺炎の予防ができた

2) 感染症の発生状況

期間	日数	感染症	内 容
R7/4/9 ～ 4/24	16日	新型コロナウイルス	発症から16日間で収束した。利用者18人、職員5人が感染した。利用者2人が肺炎となり救急搬送され、内1人は入院となった。
R7/5/22～ 6/5	15日	新型コロナウイルス	発症から15日間で収束した。利用者7人、職員3人が感染した。発熱・咽頭痛など症状見られたが、重症化はなかった。
R7/9/9～ 9/22	14日	新型コロナウイルス	特に重症者もなく終息したが、2階、3階同時に発症したためショートステイ受け入れなどへも影響が出てしまった。
R7/11/28～ 12/12	14日	レジオネラ肺炎	慈恵第三病院へ11/27に入院した利用者からレジオネラ菌が検出されたと保健所より連絡があった。保健所の指導により加湿器と機械浴の消毒を徹底し、検査を行い12/12に収束となる。利用者への感染拡大はなかった。

3) 肺炎球菌ワクチンの接種状況

(単位：人)

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
接種者数	3	5	23	0	39

4) 嘱託医による施設内の診察状況

(延人数 単位：人)

年度	内科	精神科	皮膚科	歯科往診	合計
令和7年度	1,953	177	76	106	2,312
令和6年度	1,889	234	90	61	2,274
令和5年度	1,793	154	88	17	2,052
令和4年度	1,890	96	89	33	2,108
令和3年度	2,030	121	100	17	2,268

5) 他の医療機関による診療状況

(延人数 単位：人)

年度	内科	外科	整形外科	耳鼻咽喉科	皮膚科	脳外科
令和7年度	63	16	50	3	12	4
令和6年度	48	8	54	13	8	7
令和5年度	42	1	17	0	13	5
令和4年度	53	2	19	2	13	7
令和3年度	36	6	26	2	21	7

年度	婦人科	泌尿器科	精神科	眼科	歯科	合計
令和7年度	2	1	0	8	1	160
令和6年度	1	1	1	16	0	157
令和5年度	0	2	3	0	17	100
令和4年度	2	2	3	5	0	108
令和3年度	0	1	2	1	4	106

6) 入院医療機関の利用状況

(単位：人)

病院名	延人数	病院名	延人数
日産厚生会玉川病院	11	さつきホスピタル	1
慈恵医科大学付属第三病院	5	川崎市立多摩病院	1
関東中央病院	5	山中病院	1
東山病院	1	三宿病院	1
世田谷記念病院	1		
		合 計	27

7) 入退院の状況・救急車による搬送

(延人数 単位：人)

年度	入退院者	救急搬送者
令和7年度	25 (入院2)	25
令和6年度	28	25
令和5年度	25	20
令和4年度	16	4
令和3年度	14	7

(12) リハビリテーションとマッサージ

種 別	内 容
機能訓練、嚥下マッサージ	週5日(月により変動あり)、機能訓練指導員において、マッサージ及び可動域訓練などの機能訓練を行っている。また、昼食前に誤嚥予防の観点から嚥下マッサージを実施している。
リハビリテーション	機能訓練指導員が、作業療法士(OT)から引き継ぐ形で個別リハビリを行っている。なお、集団体操は、機能訓練指導員との連携のうえ水曜日にリハビリ担当が中心となり実施し、より多くの利用者にリハビリの機会を設けている。
個別機能訓練実施計画書	3か月に1回の評価を行い、個々のニーズに則した計画を作成している。変化に即した計画の変更を実施している。

<実施状況>

(延人数 単位:人)

年度	個別リハビリ	機能訓練	嚥下	合計
令和7年度	215	3,306	218	3,739
令和6年度	110	3,111	183	3,404
令和5年度	190	2,978	227	3,395
令和4年度	337	3,346	277	3,960
令和3年度	417	3,275	491	4,183

6. 高齢者デイサービスセンター

通所介護は事業所規模の平均利用延人員数上限の750人に対し709人となり、前年度を下回りました。第3四半期以降は定員を満たし、待機者も発生しており、来年度に繋がる第4四半期を終えています。

認知症対応型通所介護は終了者が多い一年でした。利益率の高い認知症対応型通所介護の定員を満たせるよう通所介護からの移行を検討しています。

令和7年度の企画として、地域に開かれたデイサービスを目指し、展覧会を開催しました。利用者の作品や活動状況を知らせる良い機会となりました。

1	目標	サービス内容の充実を図る
	評価	① 入浴は加算の算定要件にもある研修を職員会議内で実施した。 ② 利用者それぞれに適した機能訓練を実施した。 ③ 音楽活動のボランティア、オセロや将棋のボランティアを受入れ、活動の場を提供できた。
2	目標	職員の対応力を養う
	評価	① 職員会議内の研修を実施し、「気づき」を共有することができている。 ② PDCAサイクルの習慣化を意識付けできていない。
3	目標	稼働率の安定と向上を目指す
	評価	① 利用者の介助状況を観察するため、他施設に訪問することができた。 ② スポット利用や送迎時間の変更等迅速に対応している。 ③ 在宅酸素、インスリン注射、尿カテーテル利用者の受入れができている。 ④ 業務効率化を目指し、マニュアルの見直しを随時行っている。 ⑤ 新たな加算の算定はできていない。 ※利用者数（稼働率） <通所介護> 1日平均 28.25人（80.7%） 通常規模型定員750人に対し、709人で目標を達成できなかった。 <認知症対応型通所介護> 1日平均 7.86人（65.5%） <総合事業> 1日平均 2.16人（43.3%）
4	目標	BCP（事業継続計画）の定着を目指す
	評価	① BCP（自然災害・感染症）の研修及び訓練を実施し、見直しも適宜行っている。
5	目標	職員のモチベーションを確保する
	評価	① 詳細な介助や対応を記録に残し、カンファレンスで統一した介助や対応を実施できるよう働きかけができている。 ② 新たな外部の研修には参加できていない。 ③ 職員会議での発言や提案をはじめ、日常的に職員間での意見交換ができる環境が生まれている。

(1) 事業活動状況

① デイサービスの一日

開始時刻	活動内容
9:00	利用者到着・健康チェック・水分補給
10:40	朝の会・活動
12:15	昼食
13:00	コーヒータイム・談話
14:00	活動
15:15	おやつ・水分補給
16:00	1便出発・第三活動

② 通所介護、総合事業での活動

内容	体操・カラオケ・書道・頭の体操・テーブルゲーム・歌の会・音楽クラブ・手工芸・壁面装飾・レクリエーションゲーム
評価	活動については大きく4つの要素の活動に分けた。 ① 身体機能の維持・向上を図る体操 ② レクリエーション要素のゲーム、テーブルゲーム、頭の体操 ③ 創作、文化活動として、手工芸、カレンダー製作、壁面装飾、書道 ④ 音楽活動として、音楽クラブ、カラオケ、歌の会 この4つの要素の活動をバランスよく計画し、各実施日担当職員を中心に、新しいゲームの考案や内容の改善に取り組んでいる。 また、手工芸やカレンダー製作については、準備作業の部分（パーツの切り分け作業などを中心）も、希望する利用者が行うことで、その満足感も作品の完成だけで終わらせず、一連の作業を含め達成感に浸る貴重な時間を提供できている。前年度に引続き、持帰り作品や季節に応じた壁面装飾の活動に様々な職種の職員が関わって企画することで、より多彩でクオリティーの高いものが提供できている。

③ 認知症対応型通所介護での活動

内容	認知症特有の症状がある高齢者を対象に、明るくゆったりとした環境をつくり、情緒の安定と心身機能の維持・向上を目的とした援助に努めた。紐巻きやパズル、塗り絵などを取入れた機能訓練や、長い廊下を生かした歩行訓練も実施している。マシントレーニング機器を活動の中で取入れ、無理のない範囲での体力維持を継続している。また、日常生活に即した作業（タオル畳み・テーブル拭き）、手工芸などの作業も取入れている。
評価	いつもの場所で、いつもの活動を、いつものメンバーと過ごせる落ち着いた環境づくりに注力し、安心して通所できる場所として提供できている。余暇の時間の充実を図り、利用者同士の交流も兼ねるテーブルゲームや合唱などで楽しめる雰囲気作りに注力した。加えて個別性を考慮し、その方の気持ちに寄り添った活動を提供している。利用者の心身の変化、ニーズに即した活動を提供できるよう職員間で情報共有に努め、日々のケアに生かしている。

④ 入浴

内容	利用者の健康状態に合わせ、特殊浴槽・一般浴槽での柔軟な対応を行っている。利用回数に関わらず希望される利用者に週2回の入浴日を設け、実施している。また、入浴サービス開始時及び1年ごとに、主治医からの身体状況に関する情報
----	--

	の提出、健康チェック・感染症予防や急変防止に努めた。 春は菖蒲湯・冬はゆず湯を行い、季節を感じる取組みを企画した。
評価	今年度も定員18人入浴希望のある方の受入れも多くできているが、全曜日数人が待機している状態である。季節の企画は好評だったため引き続き行っていきたい。

⑤ 食事

内容	食事形態の変更や自助食器の提供などの利用者の状態に合わせた個別対応を実施している。ソフト食も含め身体状況に合わせた特殊調理を施した食事の提供も行っている。誕生会のある週には、特別感のあるケーキ、行事ではテーマに合わせた食事やおやつを提供している。毎月一日は赤飯を提供している。 今年度も好評であったイベント食【寿司バイキング】を実施し、利用者の目の前で寿司を握り、提供することができた。「おいしかった」との声も多く聞かれた。水分提供については、麦茶とイオン水の提供を実施している。ヤカンのお茶が冷めてしまうことがあり、利用者から「お茶がぬるい」と意見があった。ウォーマーを購入・設置し、お茶を温かいまま提供できるよう環境を整えた。
評価	利用者の要望等について細やかに対応することができた。来年度も食事に対する日々の意見を取入れられるように心掛けていく。前年度に引き続き麦茶・イオン水の提供を行い、より一層脱水予防に努める。

⑥ 健康チェック・機能減退防止・健康増進

内容	利用者の高齢化が進み、独居又は高齢者のみ世帯の利用者が増え、医療行為を必要とする利用者も多い。自己管理が難しい利用者の薬を預かる等の服薬支援、活動状況、摂食・嚥下状況・食事水分量・栄養・体重管理、皮膚トラブル（スキンケア・かきこわし・脂漏性湿疹など）対応、むくみ改善のための弾性包帯への対応、血糖測定・インシュリン注射・糖尿病治療薬注射、在宅酸素、排泄状況・尿カテーテル管理。利用者の医療情報を把握し健康状態の観察を行い、異常の早期発見・早期対応に努め、利用者・家族へのアドバイスや連絡、必要時他部署との医療連携を行っている。
評価	利用者の医療情報一覧を作成し、ワイズマン内の個々の情報にも入力することで利用者の状態把握など情報共有に役立てるようにした。加えて日々のケアを通して、バイタルサイン測定や健康状態の観察・報告を行い、利用者家族、関係職種・事業所等との連携を取り、利用中の健康状態や異常の早期発見・早期対応に努め、専門職としてのアドバイスを利用者や家族に行うことができている。食事時の観察・内服対応により食事水分量・嚥下状態の把握に努めた。毎月(含毎週2人)の体重測定により、利用者の状態変化の把握など情報提供ができている。また、利用者の状態により主治医から求められた場合には、ケアの継続・状態変化の報告をすることができている。MCSによる情報共有は、利用者の状態把握とタイムリーな連携に大変役立っている。

⑦ 送迎

内容	送迎範囲を市内の遠隔地や世田谷区喜多見1～5丁目と7丁目までに拡大している。利用者の状況により、時間の変更や複数回の送迎等、要望に沿った送迎を継続している。通常の送迎車に加えて軽自動車による個別対応を継続している。これにより、一定数以上の利用者を受入れることができている。
評価	① 利用者数を維持するため、市内の遠隔地（多摩川住宅）の利用受け付けは中断している。 ② 運転手の確保が困難なことから、軽自動車での送迎をなくせるよう調整して

	いる。送迎車両を2台（ハイエース）購入している。
--	--------------------------

⑧ 講師によるクラブ活動

内容	感染症予防対策を実施しながら砦音楽療法研究会の野田講師による音楽クラブを実施した。
評価	音楽クラブは月に1回、利用者が均等に参加できるよう、毎月曜日を変えて実施した。

⑨ 行事実施状況

月	行事名	内 容
7月	納涼祭	2日間の開催。昼食は松花堂弁当形式で提供、夏野菜の天麩羅などの夏らしいメニューは好評を頂いた。 納涼祭行事の内容としては、昨年の納涼縁日方式を踏襲しつつ、かき氷、くじ引き、おみくじ輪投げを実施。改善点としては昨年も実施し好評だったかき氷の提供について、本年度は管理栄養士の他に行事担当者を中心に3人の職員が検便検査を受け、衛生管理上問題なくスムーズにかき氷の提供をできる形とした。おみくじ輪投げはオリジナルでおみくじを作成し、内容も職員間でアイデアを募集し、利用者のこまえ苑での普段の活動の活性化を目指す内容とし好評であった。全体の装飾や演出についても、装飾用風船や祭囃子BGM、祭り半纏などで納涼縁日の雰囲気を作り楽しんでいただいた。
9月	敬老会	2日間の開催。昼食は敬老祝い膳を提供「豪華な食事で美味しかった」等の感想があった。午後の活動時間を使用し前半に一人ひとりにお祝い品の贈呈を行い、後半は音楽ボランティアによる（オカリナ演奏、バンド演奏）を披露。オカリナの演奏で懐かしい曲を聴くことができ「一生の思い出になった」との感想が聞かれていた。お祝い品には6色ある「スタンドにもなるシリコンケース」を贈呈し喜ばれている。
1月	新年会	2日間の開催。昼食は、赤飯、天ぷら、お刺身、おせち盛り合わせなど、新年にふさわしいものを提供し完食者多数の高評価だった。 今回は外部ボランティア（12日ボーダーズ・13日ブルームーン）をお呼びし新年らしい曲の選択をお願いした。ボーダーズはフラダンスと一緒に手配してくださり皆様楽しまれていた。おやつの松竹梅の練り切りも好評だった。
評価		今年度はボランティアによる演奏などの企画を考案し大変好評であった。今後も単調化しないようボランティアの受入れを検討する。

（2）家族懇談会

開催状況

開催日	第1回	第2回
	令和7年5月23日	令和7年10月25日
参加家族数	11人	21人
開催内容	① 苑長挨拶・職員自己紹介・スライド鑑賞 ② グループに分かれて懇談会 ③ こまえ苑からのお知らせ	① 苑長挨拶・職員自己紹介・スライド鑑賞・高齢者の栄養についての講話 ② グループに分かれて懇談会 ③ こまえ苑からのお知らせ

評価	利用している事業以外の内容を紹介することができた。利用者家族が参加しやすいよう平日と土曜と開催日設定し、多くの参加をいただいた。第2回では管理栄養士による講話が好評だった。展覧会実施期間に設定し、日ごろの活動の一環を家族に見ていただくことができた。懇談では家族同士の交流の場として意見交換や質問が活発であった。施設・家族の双方で利用者を支えることの理解を共有することができた。
----	--

(3) 運営推進会議（認知症対応型通所介護）

開催状況

開催日	第1回 令和7年6月20日	第2回 令和7年11月21日
出席者	利用者、家族、地域の代表者、自治体職員、地域包括支援センター職員、事業所職員2人、事業所代表者、事業所管理者	利用者、家族、地域の代表者、自治体職員、地域包括支援センター職員、事業所職員1人、事業所代表者兼事業所管理者1人
主な内容	① サービス提供内容について ② 利用者数等の事業実績について ③ その他意見交換	
評価	地域の現状を共有し、今後地域とどのように密着した関わりを深めていくか出席者で意見交換を行った。こまえ苑は令和7年度に30周年を迎えた。今後も地域の方と交流を深めていきたいことをお伝えした。地域に開かれた施設として実習生や職場体験、ボランティアの受け入れを年間通して行っている。年間行事報告を通して説明し、理解をいただいている。	

(4) 利用率の推移

(単位：%)

年度	通所介護、 介護予防通所介護、 総合事業・国基準 通所型サービス	総合事業・ 市基準通所型 サービスA	認知症対応型
令和7年度	80.7	43.3	65.5
令和6年度	83.2	33.7	66.2
令和5年度	75.6	45.3	57.1
令和4年度	72.0	62.2	57.5
令和3年度	66.7	81.0	59.1

※ 令和5年度より認知症対応型の定員を10人から12人に変更

(5) 男女別利用者数

① 通所介護、介護予防通所介護、総合事業・国基準通所型サービス（延人数 単位：人）

年度	男	女	計
令和7年度	2,895	5,779	8,674
令和6年度	2,566	6,401	8,967
令和5年度	2,456	5,690	8,146
令和4年度	2,606	5,160	7,766
令和3年度	2,687	4,506	7,193

② 総合事業・市基準通所 A

(延人数 単位：人)

年度	男	女	計
令和 7 年度	115	653	768
令和 6 年度	20	499	519
令和 5 年度	0	656	656
令和 4 年度	105	848	953
令和 3 年度	143	1,105	1,248

③ 認知症対応型

(延人数 単位：人)

年度	男	女	計
令和 7 年度	1,183	1,229	2,412
令和 6 年度	1,064	1,382	2,446
令和 5 年度	755	1,356	2,111
令和 4 年度	455	1,314	1,769
令和 3 年度	280	1,539	1,819

(6) 要支援度・要介護度の比率

① 通所介護、介護予防通所介護、総合事業・国基準通所型サービス

(単位：%)

年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
令和 7 年度	38.1	28.8	13.6	14.4	5.1
令和 6 年度	34.5	27.6	18.4	12.5	7.1
令和 5 年度	36.6	24.6	19.7	10.7	8.4
令和 4 年度	35.1	33.8	13.9	8.9	8.3
令和 3 年度	37.6	34.9	9.8	9.6	8.1

② 総合事業・市基準通所 A

(単位：%)

年度	事業対象者	要支援 1	要支援 2
令和 7 年度	20.0	26.7	53.3
令和 6 年度	34.3	36.4	29.3
令和 5 年度	37.8	10.4	51.8
令和 4 年度	40.2	5.0	54.8
令和 3 年度	32.3	7.4	60.3

③ 認知症対応型

(単位：%)

年度	要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
令和 7 年度	0.0	20.0	17.1	20.0	20.0	22.9
令和 6 年度	0.0	16.9	29.9	25.9	5.9	21.4
令和 5 年度	0.0	12.0	25.9	30.4	22.3	9.4
令和 4 年度	0.0	11.0	23.9	40.3	14.4	10.5
令和 3 年度	0.0	6.9	19.3	46.4	12.8	14.6

(7) 入浴サービス

(延人数 単位：人)

年度	一般入浴	機械入浴	合計	一日平均
令和 7 年度	2,807	1,752	4,559	14.9
令和 6 年度	2,761	1,793	4,554	14.5
令和 5 年度	2,628	1,600	4,228	13.7

令和4年度	2,366	1,268	3,634	11.8
令和3年度	2,132	992	3,124	10.1

(8) 年齢構成

令和8年3月31日現在

年齢 (歳)	通所介護			総合事業			認知症対応型			合計			構成比 %
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
64未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
65-69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
70-74	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	2	1.6
75-79	4	2	6	0	2	2	1	2	3	5	6	11	8.6
80-89	18	25	43	0	2	2	3	6	9	21	33	54	42.8
90-94	7	26	33	1	1	2	2	7	9	10	34	44	35.0
95以上	3	8	11	0	1	1	2	1	3	5	10	15	12.0
合計	33	61	94	1	7	8	8	16	24	42	84	126	100.0

(9) 曜日別利用率

令和7年度(単位: %)

曜日	通所介護	総合事業	認知症対応型	合計
月	73.9	65.2	62.2	67.1
火	82.5	55.9	59.8	66.1
水	80.5	36.3	63.3	60.0
木	77.3	28.3	57.8	54.5
金	84.7	34.3	57.3	58.8
土	80.7	45.3	63.8	63.3

7. ホームヘルプ事業

事業所の安定運営を図るため、新規利用者の獲得に力を入れ年間89件の新規依頼を受けた。年度目標として身体介護5,000時間/年としたが、大幅に目標を超え5,930時間となった。収入も6,600万円となり前年比1,100万円増となった。

また、ヘルパーの資質向上のため喀痰吸引研修を受け、3人が東京都に従事者登録を済ませた。

(1) 従業員の人数

①	サービス提供責任者	6人
②	常勤ヘルパー	5人
③	登録ヘルパー	13人
④	認定ヘルパー	6人

1	目標	専門職として知識や技術の向上を図る
	評価	① 全12回のミニ研修会を毎月の定例会で実施し、ヘルパーの知識の積上げを行った。 ② 接遇マナー研修を実施し、利用者・家族から信頼される専門職としての対応を学んだ。 ③ 高齢者虐待に関する委員会と研修会を開催し、ヘルパーの知識の向上を図る事ができた。 ④ 東京都の喀痰吸引研修を4人の職員が受講し、内3人が東京都に従事者登録した。実際に利用者への胃ろう・吸引を実施している。
2	目標	介護支援専門員及び関係事業所との連携を強化する
	評価	① MCS等の連携ツールを活用し迅速な情報共有を図ることができた。 ② 多職種連携研修会に職員1人が参加し、BCPをテーマに市内関係事業所とグループワークを行い、災害時の連携体制について訓練を行った。
3	目標	緊急時や事故防止への取組み
	評価	① 毎月の定例会でヒヤリハット・事故事例を共有し、想定される場面や対応について共有した。
4	目標	ハラスメント対策への取組み
	評価	① 定例会で研修を行い、職員が抱え込まないよう適切な対応を学んだ。
5	目標	事業継続への取組み
	評価	① マニュアルの再確認、および災害用物品を確認を実施。 ② 10月に苑全体での防災訓練・BCP訓練を実施し、計画に沿った行動を確認した。

ホームヘルプサービス実績

令和7年度（単位：時間）

年度	身体介護	生活援助	訪問型独自	訪問型定率	保険対象外	合計
7年度	5,930.25	5,477.82	530.77	2,092.31	29.17	14,060.32
6年度	5,127.07	4,353.35	510.25	1,604.07	36.5	11,631.24
5年度	4,747.65	4,093.42	359.50	1,226.65	8.00	10,435.22
4年度	3,141.86	3,931.32	159.25	951.47	13.08	8,196.98
3年度	3,041.19	3,699.48	270.33	793.08	5.91	7,809.99

8. 地域包括支援センター

1	目標	＜介護予防ケアマネジメント＞ 介護予防・日常生活支援総合事業に関する市民からの相談対応、各種案内を行い、適切なケアマネジメントを実施する
	評価	① 約245件/月の介護予防ケアマネジメントを実施している（「(6)－2 予防プラン作成件数」参照）。緩やかな増加を続けており、介護予防ケアマネジメント業務が他業務を圧迫している状況は続いている。世帯プランとして、これまでの夫婦プランに加え親子プランも増加している。委託件数は約22件/月と前年度同様数となっている。前年度より居宅介護支援事業所が介護予防支援を直接契約できるようになったが指定を取得している事業所はなく、居宅介護支援事業所へ日々委託を相談している状況が続いている。 ② ケアプランデータ連携システムを活用し、業務の効率化を目指している。 ③ 法定研修であるBCP、感染症対策、高齢者虐待防止の研修は、今年度も実施できた。
2	目標	＜総合相談支援事業＞ 複雑化する高齢者の相談に対して適切な機関・制度・サービスにつなげる
	評価	① 年間9,600件以上の相談に対応した。相談内容（「(6) 相談内容」参照）では、予防プラン、権利擁護事業、包括的・継続的ケアマネジメント事業の増加率が高かった。特に予防プランは総合支援の数を上回っており、改めて介護予防ケアマネジメントが業務を圧迫している状況が見える。介護度（「(3) 介護度」参照）では、要支援1と2、事業対象者が増加しており、軽度者の増加が顕著となっている。また、申請中も引続き多く、認定結果が出るまでの支援を包括が担っている現状が伺える。年齢（「(4) 年齢」参照）では、75～79歳、80～84歳、85～89歳、90歳以上が多く、団塊世代が後期高齢者となった影響と思われる。相談形態（「(2) 相談形態」参照）では電話、来所、訪問、会議すべてにおいて増加しており、対応しなければならない相談件数は令和3年度の件数の1.7倍となっている。入院をきっかけに課題が明確化する場合も多く、医療機関との連携も重要となっている。また、キーパーソンである「子」が先に亡くなり、その後の支援が複雑化するなど超高齢社会ゆえの展開も増えている。在宅生活のみならず、施設入所後の相談も増えており、相談内容は多角化、複雑化している。業務の効率化と質の維持への取組みが、引続き必要となっている。 ② 精神保健福祉士は保健所、障害福祉サービス支援者等との定期的な意見交換会などネットワークを構築できている。新たな取組みとして、基幹相談支援センターと協働で「高齢障害者の支援を学ぶ」という題名で研修会を開催した。 ③ 住まい探しの相談窓口への同席、多世代交流拠点事業でのアウトリーチで把握されたケースへの介入など、相談を待つだけではない体制も定着している。
3	目標	＜権利擁護事業＞ 高齢者が地域において尊厳のある生活を維持し、安心して生活できるように支援を行う
	評価	① 年間延べ448件（前年度217件）の虐待対応を行った（「(6)－3 権利擁護事業相談内容別前年度比増加率」参照）。疑いを含む新規の受理会議は14件（前年度15件）と前年度同様となっている。特に外鍵やベッド柵など身体拘束に関わる事案もあり、関連機関含め、正しい知識や対応の普及啓発

		が必要だと感じている。セルフネグレクトケースは、経済的な課題へのアプローチ、判断能力、精神疾患の評価が必要となるケースも多く、関連機関とも連携しながら対応している。 ② 消費者被害では、年間11件（前年度5件）の相談に対応した。消費者被害防止の普及啓発として2か所のサロンで講座を実施した。定期的に講座を開催することで意識は高まってきていると感じている。 ③ 成年後見制度に関する相談は、年間延べ97件（前年度85件）に対応した。成年後見制度や日常生活自立支援事業、あんしん未来事業の需要・対応が増えており、あんしん狛江と連携を取りながら対応している。
4	目標	<包括的・継続的ケアマネジメント支援事業> 地域の介護支援専門員が、包括的・継続的なケアマネジメントを実践できるようスキルアップを支援する
	評価	① 包括的・継続的ケアマネジメントにおける相談は年間延べ739件（前年度577件）と増加している。介護保険サービス以外の課題を抱えた困難なケースが増えていることが伺える。ケアマネジメントに留まらない複雑なケースも増えており、同行訪問や支援者会議の開催など後方支援をしている。 ② 介護支援専門員向けのケアマネステップアップ研修は年2回、「ACP」と「介護離職を防ぐための法制度」をテーマにハイブリッドと動画配信方式で実施した。 ③ 事例検討会は定例の年1回、「契約解除にあたらぬ迷惑行為」というテーマで開催し、個別ケア会議へ発展させることができた。 ④ 主任介護支援専門員連絡会や介護支援専門員連絡会へ参加し、顔の見えるネットワークづくりとスキルアップを支援した。
5	目標	<認知症総合支援事業> 認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、認知症に理解ある地域づくり等を目指す
	評価	① 認知症連携会議、認知症コーディネーター連絡会に参加し、関連事業の企画・運営を行った。 ② 本人ミーティングを年3回開催した。 ③ 市民向けの認知症サポーター養成講座、認知症サポーターステップアップ講座を他包括と協働して開催した（計32人受講）。狛江市役所新任職員向けに認知症サポーター養成講座を行った（39人受講）。 ④ 新たに、エリア内の学童保育所3か所で夏休み中のイベントとして「認知症キッズサポーター養成講座」を開催した（計131人受講）。 ⑤ 認知症連携会議へ2件ケース相談をし、1件は初期集中支援チームの介入となった。チームからのアドバイスにより、ケースの深堀と支援の整理をすることができた。 ⑥ もの忘れ相談会は市民に定着し、支援につながっている。 ⑦ 家族介護者の会、認知症カフェ共に会場2か所を交互に隔月で定期開催した。認知症の進行と共に自力での通いが難しくなる方もいて、送迎支援が課題のままとなっている。
6	目標	<地域ケア会議推進事業> 専門職、民生委員、その他関係者による個別ケア会議を実施する。さらに個別ケア会議から抽出された地域課題が政策化につながるよう具体策を検討す

		る
	評価	① 支援推進型個別ケア会議を年4回、予防推進型個別ケア会議を年2回実施した。訪問診療、訪問介護事業所、CSW、生活保護ケースワーカーなどをアドバイザーとして招へいし、より専門性の高いアドバイスを受ける事ができた。 ② 抽出された地域課題について、幹事会で課題整理を行った。その中で優先度の高かった「認知症高齢者の金銭管理への支援」「認知症の方への医療的なアウトリーチ」という課題に対し地域課題検討会議で協議した。
7	目標	<地域リハビリテーション活動支援事業> リハビリテーションの専門職が地域の介護予防への取組みができるよう支援する
	評価	① 市内一般高齢者に対し、フレイル予防の4要素を無理なく取入れられる「健康寿命を延ばすコツ」という講習会を3包括合同で開催した。 ② 前年度に続き、自宅でできる運動をリハビリ職に相談したいとのニーズに応えるため、3センター合同で個別相談会を開催した。枠を広げたことで、広域に広報を行うことができ、その結果、フレイル予防対象者が参加し満足度の高いものになった。
8	目標	<ICTを活用した介護予防拠点整備事業> ICTを活用した介護予防拠点の運営維持管理を行う
	評価	外出の機会、活動範囲の拡大を目指し、地図アプリのスマホ教室を開催した。市内や包括での運動に参加できるきっかけとなり好評だった。
9	目標	<介護予防・フレイル予防推進事業> 住民が主体となって運営する活動への支援と地域の実情に沿った介護予防、生活支援を推進する
	評価	① これまで通所サービスBの活動団体がなかった地域に立上げ支援を行い、令和7年4月より「岩戸いきいき体操クラブ」2団体が活動を開始することができた。80人の登録があり、地域の介護予防に寄与している。 ② コミュニティー紙「いこいの便り」は、介護予防、生活支援の情報源として定着している。 ③ 自主グループの徒歩サークル「歩こう会」は高齢者運動推進員の活用により安定した活動となっている。 ④ 園芸ボランティアサークルについては、認知症や身体機能の低下した方が脱退し、メンバー減少している。 ⑤ 口腔衛生、栄養面からのアプローチとして、調理実習「いつものお食事にちょい足しで栄養バランスを整えよう」、調理と口腔講座「生活習慣病を予防しよう！口の健康と節塩のコツ」を実施した。普段と異なる層が参加し、介護予防のすそ野を広げることができた。
10	目標	<家族介護者の会運営> 家族介護者の会において、認知症支援についての情報提供やリラクゼーションとなるようなミニ講座を年2回開催する
	評価	「ヨガをして心と体をリフレッシュ!」、「オムツの基礎知識と排泄介助の上手なコツについて」というテーマで講座を2回開催した。
11	目標	<高齢者福祉サービス費等訪問調査事業>

		市の一般給付事業に係る申請支援、適正な給付に向けたアセスメントを実施する
	評価	年間36件の申請支援、アセスメントを実施した（「(7) 高齢者福祉サービス等訪問調査」参照）。
12	目標	＜介護予防普及啓発事業＞ 介護予防の基本的な知識を普及啓発するための事業を実施する
	評価	① 対面での会場開催のみで実施した。定員に対して下回り、新規参加も少ない状況。広報の見直しをしてポスターをリニューアルし、配布先を増やすなどの対策をした。参加者がイメージしやすい様に「運動強度」を新たに表記した。 ② 常連の参加者に偏りがちなため、フレイル予防の入門編として「大人の体育大学」の連続講座を開催し、数名の新規参加があった。 ③ 「高齢者の保健事業と介護事業の一体的実施事業」へ参画し、地域の健康課題を介護予防へ反映できるよう講座内容の調整、講師との連携を図った。 ④ コミュニティー紙「いこいの便り」をコミュニティソーシャルワーカーと協働で年4回発行し、介護予防に関する記事を掲載した。
13	目標	＜在宅医療・介護連携推進事業＞ 高齢者が安心して住みなれた地域で在宅療養を送れるよう、医療と介護の切れ目のない連携体制を構築していく
	評価	① 51件（前年度63件）の相談に対応した。一般的な医療機関に関する相談（20件）、転院・入所（14件）、訪問診療（6件）に関する問い合わせが多かった。 ① 訪問介護事業所にて感染性対策（ガウンテクニック）の勉強会を実施した。
14	目標	＜多世代・多機能型交流拠点事業（ふらっとなんぶ）＞ 地域の高齢者の孤立防止、介護予防、活躍の場となるよう居場所や交流の場を提供する。訪問によるアウトリーチ機能も強化する
	評価	① フリースペースの利用者は延べ1,713人（月平均142.7人）だった。居場所の提供のほか、切手切りや庭の雑草取りなどは一人で来訪する方にとって役割が持てるものとなった。今年度より、新たに「将棋を楽しもう会」を開始した。「ふらっとウォーキング」「体操教室」「歌ってのどトレ」「健康麻雀」は定番のイベントになっている。 庭での野菜作りや雑草取り、年間を通しての水まきなどを高齢者も分担して行い、外出の機会や役割づくりにもつながった。 ② 65歳以上の高齢者がいる世帯の中から、85歳以上の独居及び80歳以上のみ世帯を対象としてアウトリーチ訪問を実施した。住基台帳を基に、介護保険サービス利用や地域包括支援センターなどの介入の履歴がある方及び前年度までに家族同居であることを確認した世帯を除いて延べ860回となった。介護保険の認定申請や、その後の定期的な見守りに繋がるなどの成果が得られている。見守りを要する高齢者については、地域包括支援センターや粕江市社会福祉協議会の他、民生委員とも連携を取ることで、より生活の状況を知ることができた。 高齢者見守り窓口事業の周知がまだ地域に浸透していないこと、特殊詐欺などに対する警戒心が強くなっていること、マンションなどのオートロ

	ックやカメラ付きのインターホンが増えていることから、呼び出しの応答のみで断られるケースもある。 ③ ギャラリースペースでは、地域包括支援センターなどから紹介された地域高齢者などから、写真や絵などを展示させていただいている。作者の年齢は、20代から90代と幅広くなっている。ふらフェスでは、地域高齢者の手芸作品なども展示販売し、その方のやりがいにも繋がった。 ④ 高齢者支援に関する内容や自費サービス、商店など地域情報に関するパンフレットを常設している。サテライト会場を含む体操教室を21回、ふらっとウォーキングを11回（7月及び2月は歩行解析）実施した。毎月1回開催の「歌ってのどトレ」は、呼吸器系や口腔・喉周辺の筋力維持を主な目的として行っており、人気のプログラムとなっている。
--	---

（１）相談件数

（延べ件数 単位：件）

年度	新規	継続	合計	所属内訳		
				自社	委託	その他
令和7年度	316	9,380	9,696	4,618	77	5,001
令和6年度	363	8,874	9,237	4,053	110	5,074
令和5年度	363	9,139	9,502	4,172	65	5,265
令和4年度	353	7,642	7,995	3,871	70	4,054
令和3年度	248	5,273	5,521	2,854	46	2,621

（２）相談形態

（延べ件数 単位：件）

形態	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
電話	5,134	4,977	5,302	4,569	3,348
来所	496	431	487	363	300
訪問	1,993	1,805	1,893	1,605	1,111
会議	417	353	312	264	154
文書	176	244	181	133	160
FAX	433	374	393	384	198
メール	206	201	239	171	65
その他	841	852	695	506	185
合計	9,696	9,237	9,502	7,995	5,521

（３）介護度

（延べ件数 単位：件）

介護度	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
支援1	1,751	1,382	1,804	1,492	1,073
支援2	3,035	2,546	2,419	2,150	1,689
要介護1	875	881	1,055	779	431
要介護2	490	669	622	368	231
要介護3	313	370	356	106	94
要介護4	284	258	290	136	154
要介護5	164	204	111	84	67
非該当	8	5	7	4	4
事業対象者	417	400	398	503	314

未申請	892	940	986	896	689
申請中	1,343	1,459	1,272	1,403	694
不 明	124	123	182	74	81
合 計	9,696	9,237	9,502	7,995	5,521

(4) 年齢

(延べ件数 単位: 件)

年齢 (歳)	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
64 以下	240	260	525	289	249
65～69	318	393	279	346	162
70～74	716	770	999	788	510
75～79	1,562	1,241	1,178	1,111	756
80～84	2,498	2,254	2,156	2,143	1,542
85～89	2,625	2,514	2,864	2,198	1,500
90 以上	1,683	1,756	1,437	1,069	749
不 明	54	49	64	51	53
合 計	9,696	9,237	9,502	7,995	5,521

(5) 相談者

(延べ件数 単位: 件)

相談者	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
本人	3,846	3,814	3,999	3,278	2,576
配偶者	464	390	509	408	281
子	868	923	970	903	592
子の配偶者	60	104	96	121	75
兄妹姉妹	56	41	45	34	39
孫	3	14	6	7	1
その他家族	59	54	79	59	50
知人	22	22	22	31	26
市役所	615	668	615	591	244
保健所	11	5	8	0	1
警察	18	16	19	8	7
消防	3	1	1	0	1
民生委員	54	28	43	35	33
地域住民	19	10	11	25	12
医療機関	722	526	588	471	263
ケアマネ	791	970	857	668	439
サービス事業者	1,788	1,329	1,366	1,124	698
匿名	1	0	1	0	0
社会福祉協議会	54	45	74	59	38
地域包括	37	20	39	31	31
あんしん泊江	42	39	17	11	8
ふらっとなんぶ	7	6	8	—	—
その他	156	212	129	131	106
合 計	9,696	9,237	9,502	7,995	5,521

(6) 相談内容

(延べ件数 単位：件)

年度	総合相談 支援事業	予防 プラン	権利擁護事業	包括的・継続 的ケアマネジ メント事業	合計
7年度	3,949	4,490	739	739	9,917
6年度	4,120	3,983	577	577	9,257
5年度	4,269	4,023	483	479	9,254
4年度	3,631	3,722	354	261	7,968
3年度	1,029	3,029	153	302	4,513

(6) - 1 総合相談支援事業内容別前年度比増加率

(単位：件)

相談内容	7年度		6年度		5年度
	件数	前年度比	件数	前年度比	件数
介護の悩み	7	—	7	▲54%	15
熱中症	3	300%	0	—	2
申請代行（介護保険外）	11	▲42%	19	58%	12
申請代行（介護保険）	148	5%	141	9%	129
苦情対応	2	▲60%	5	▲17%	6
円滑なサービス利用の調整・支援	1,001	▲21%	1,271	3%	1,229
家族等に障害等あり多問題	102	▲46%	190	19%	159
ターミナル期の支援	97	26%	77	▲48%	148
退院における支援	341	▲7%	365	▲2%	372
認知症による生活障害	410	▲14%	477	▲7%	508
精神疾患による生活障害	107	▲42%	183	▲27%	249
経済的問題	132	▲53%	278	51%	184
サービス導入拒否	25	▲50%	51	142%	21
その他	2,234	2%	2,190	1,752%	125

(6) - 2 予防プラン作成数

()内は委託数の再掲 (単位：件)

年度	ケアプラン 作成数	新規	終 了				
			非該当	介護給付 へ移行	施設 入所	死去	その他
7年度	2,946(266)	89(10)	0(0)	42(4)	3(0)	1(0)	15(1)
6年度	2,548(245)	111(19)	0(0)	48(3)	4(0)	1(0)	11(2)
5年度	2,430(216)	86(7)	0(0)	46(5)	1(0)	3(0)	13(0)
4年度	2,312(236)	73(9)	0(0)	47(4)	0(0)	1(0)	19(1)
3年度	2,379(262)	71(5)	0(0)	41(2)	4(0)	0(0)	15(1)

(6) - 3 権利擁護事業相談内容別前年度比増加率

(単位：件)

相談内容	7年度		6年度		5年度
	件数	前年度比	件数	前年度比	件数
地域権利擁護事業	8	33%	6	—	0
任意後見・成年後見	97	14%	85	27%	67
虐待（疑いを含む）	448	106%	217	14%	191
セルフネグレクト	8	▲85%	53	152%	21
消費者被害	11	120%	5	▲75%	20

その他	222	5%	211	15%	184
-----	-----	----	-----	-----	-----

(6) - 4 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業相談内容別前年度比増加率

(単位:件)

相談内容	7年度		5年度		5年度
	件数	前年度比	件数	前年度比	件数
同行訪問	73	70%	43	65%	26
サービス担当者会議への参加	25	▲38%	40	122%	18
ケアプランの検証	0	—	0	—	0
その他	664	▲13%	767	28%	599

(7) 高齢者福祉サービス費等訪問調査

(単位:件)

申請種別	7年度	6年度	5年度	4年度	3年度
高齢者救急代理通報システム事業 (旧あんしん見守り事業)	9	7	6	10	3
高齢者居宅内ごみ出しサポート事業	2	1	0	2	0
高齢者自立支援住宅改修費給付事業 (担当者外)	1	0	1	1	—
高齢者自立支援日常生活用具給付事業	11	9	6	16	—
認知症高齢者位置情報提供サービス事業	3	1	2	4	9
居宅介護住宅改修	10	10	13	8	—
合 計	36	28	28	41	12

(8) 申請代行 (介護保険)

(単位:件)

申請種別	7年度	6年度	5年度	4年度	3年度
介護保険(要介護・要支援)認定 申請書(新規・更新・変更)	393	432	386	416	333
介護(予防)サービス計画書・届 出書	140	207	157	154	141
住宅改修	13	12	14	11	13
軽度者申請 福祉用具	1	10	5	9	7
情報提供申請書兼同意書	201	361	198	214	158
チェックリスト	7	10	13	21	5
合 計	755	1,032	773	825	657

(9) ふらっとなんぶ

① 身守り活動の実施状況 (年間合計数)

(単位:件)

見守り活動の種別	7年度	6年度	5年度
戸別訪問	801	795	202
うち、実際に面会できた訪問	550	554	129
電話訪問 (電話による安否確認)	59	62	12
うち、実際に会話できた電話訪問	53	55	1

本人が高齢者見守り相談窓口に来所することによる安否確認	1,713	1,415	821
ボランティア等を活用した見守り（高齢者見守り相談窓口が働きかけたものに限る。）	0	0	0
その他の方法による見守り	2	14	7

② 相談者及び相談方法別の相談受付件数（年間合計数）

（単位：件）

相談者 \ 相談方法	来所	電話	訪問	その他	7年度	6年度	5年度
本人	5	8	28	1	42	91	31
家族	2	6	1	1	10	4	5
近隣・知人	2	0	1	0	3	1	1
行政関係者	0	0	0	0	0	0	1
関係機関	0	0	0	0	0	3	2
民生・児童委員	5	0	0	0	5	3	1
医療機関・介護事業者等	0	0	0	0	0	0	0
見守りボランティア等	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	0	1	0	0
合 計	14	15	30	2	61	102	41

③ 相談受付時の連携（つなぎ）先（年間合計数）

（単位：件）

連携（つなぎ）先	7年度	6年度	5年度
地域包括支援センター	24	29	27
市役所（福祉事務所等）	0	0	2
社会福祉協議会	0	0	0
保健所	0	0	0
民生・児童委員	0	3	0
見守りボランティア等	0	0	0
介護サービス事業者	1	4	3
医療機関	0	0	0
警察・消防	1	0	0
相談員で解決	28	62	47
その他	6	13	10
合 計	60	111	89

④ 相談（相談受付後に行った情報収集を含む。）の内容

（単位：件）

相談内容区分	7年度	6年度	5年度
介護保険サービス、介護予防・日常生活支援総合事業に関する事	22	18	9
（上記を除く）自治体が独自に実施している福祉サービス	4	0	0
地域団体等が自主的に実施しているサービス	1	3	4
保健・医療サービスに関する事	2	0	0
高齢者虐待に関する事	2	5	1
権利擁護に関する事（高齢者虐待に関する事を除く）	1	16	2
経済問題に関する事	0	0	0

今後の住まい（特養入所、都営住宅入居等）に関すること	0	1	1
サロン等生きがい活動に関すること	2	10	4
住居や人の異変等への「気付き」に関すること	4	1	1
緊急通報システムに関すること	1	0	0
認知症に関すること	7	8	6
見守りネットワークや見守り活動に関すること	2	11	13
その他	12	36	30
合 計	60	109	71

9. 居宅介護支援事業所

1	目標	自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントを提供し、安定した事業所運営を図る。
	評価	① 目標値33件に対し平均担当件数は32.0件となる。前期29.0件後期35.0件となっており、前期は職員の退職、異動があったため目標値を下回るが、後期は目標値を上回っている。特定事業所加算の取得要件となる主任介護支援専門員も、新たに1人資格取得し3人を確保する。 ② 休日夜間も4人の職員でオンコール対応した。 ③ 週1回のミーティングを実施し、情報共有することで担当者不在時にも対応できる体制を作った。 ④ アセスメント等の必要書式は統一化している。ケアプランデータ連携システムを活用し、業務の効率化に努めた。 ⑤ 虐待・困難ケースを受け入れ、地域包括、行政と連携を取りながら支援にあたることができている。 ⑥ 全員が研修に参加し、虐待・身体拘束の理解に努めるとともに、早期の発見相談に努めている。
2	目標	職員の資質向上及び人材育成に取り組む
	評価	① 地域包括支援センターが行うステップアップ研修、市が行うケアプラン研修、東京都主催の権利擁護、認知症研修を受講。 ② 介護支援専門員実務研修を2人受入れた。 ③ 介護支援専門員1人が主任介護支援専門員の資格取得。
3	目標	地域包括ケアシステムの構築を目指し、地域の関連団体との連携を強化していく
	評価	① 狛江市介護支援専門員連絡会に6回参加し、職能団体の運営に携わり、狛江市内の事業所間の連携に努めた。 ② 主任介護支援専門員の連絡会には2人が参加し、地域課題の抽出や事例検討会でのファシリテーターなど介護支援専門員の質の向上に協力した。 ③ ケアプランデータ連携システムを活用し7事業所とデータ連携を実施。 ④ 他法人との合同研修会については、6月に5法人合同で災害時のBCPをテーマに集合で研修会を実施することができた。来年度はハラスメントをテーマに6月に研修を予定している。

(1) 居宅介護支援事業利用状況

① 加算対象（年間延べ件数）

（単位：件）

区分	7年度	6年度	5年度	4年度	3年度
初回	69	95	75	80	73
入院時連携Ⅰ	9	21	35	29	48
入院時連携Ⅱ	10	21	7	6	3
退院退所Ⅰ 1	1	5	7	3	14
退院退所Ⅰ 2	1	2	3	0	0
退院退所Ⅱ 1	0	0	1	5	7
退院退所Ⅱ 2	1	0	0	0	0
退院退所Ⅲ	0	0	0	1	0
通院時情報連携加算	3	7	12	1	5
小規模多機能型連携	0	0	0	0	0
中山間地加算	0	0	0	0	0

看小多機能連携	0	0	0	0	0
緊急時等カンファ	0	0	0	0	0
ターミナル加算	2	1	1	0	4
特定事業加算Ⅱ	2,177	2,246	2,351	2,169	2,244
特定事業加算Ⅲ	0	0	0	0	0
運営基準減算	0	0	0	0	0

② 認定調査件数 (単位：件)

年度	調査件数
令和7年度	4
令和6年度	31
令和5年度	19
令和4年度	26
令和3年度	1

③ 自事業所利用割合 (単位：%)

年度	※訪問介護	※通所介護	認知症通所介護	短期入所
令和7年度	71.1	50.3	66.5	54.2
令和6年度	64.5	50.8	94.9	48.3
令和5年度	58.6	47.2	55.2	55.1
令和4年度	52.6	47.0	71.7	56.3
令和3年度	44.8	46.7	62.3	48.7

注) ※は特定事業所集中減算対象 (一定条件のもと80%超は減算)

④ 居宅介護支援事業 要介護の状況 (単位：件)

年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	1人当たり 件数
令和7年度	869	757	285	170	96	2,177	32.0
令和6年度	809	751	404	160	122	2,246	26.7
令和5年度	791	701	497	218	144	2,351	32.7
令和4年度	749	700	377	235	108	2,169	30.1
令和3年度	769	691	299	357	128	2,244	31.2

【参考資料】決算の推移（事業活動計算書）

① サービス活動増減差額

（単位：円）

事業	7年度	6年度	5年度	4年度	3年度
本部	▲195,000	▲210,000	▲215,000	▲195,000	▲170,000
介護老人福祉施設	35,987,045	32,704,249	41,298,295	35,773,260	41,189,905
短期入所生活介護事業	1,975,577	2,401,964	921,237	2,648,458	2,821,508
通所介護事業	9,836,911	14,629,811	▲1,425,967	▲6,187,243	▲7,697,203
認知症対応通所介護事業	7,108,572	7,925,246	1,745,670	▲1,561,786	▲2,371,134
訪問介護事業	10,906,039	5,499,742	4,616,240	▲1,749,325	▲2,535,886
地域包括支援センター事業	384,629	305,706	10,027	518,576	4,382,955
介護予防支援事業	▲728,510	18,266	227,898	▲11,318	▲90,054
居宅介護支援事業	7,323,302	6,477,188	6,590,760	4,155,700	8,043,366
合 計	72,598,565	69,752,172	53,769,157	33,391,322	43,573,457

② サービス活動外増減差額

（単位：円）

事業	7年度	6年度	5年度	4年度	3年度
本部	17,964	2	9	344	88
介護老人福祉施設	12,059,021	12,365,014	5,734,247	4,725,304	4,425,609
短期入所生活介護事業	161,755	163,128	171,975	166,412	145,139
通所介護事業	641,183	1,327,937	928,182	535,463	791,606
認知症対応通所介護事業	118,252	332,807	217,816	116,830	176,502
訪問介護事業	38,274	42,424	60,558	36,292	35,706
地域包括支援センター事業	78,281	72,537	86,018	68,857	72,551
介護予防支援事業	15,428	13,204	14,733	11,683	13,500
居宅介護支援事業	26,297	34,439	27,659	43,549	22,432
合 計	13,156,455	14,351,492	7,241,197	5,704,734	5,683,133

③ 経常増減差額（①＋②）

（単位：円）

事業	7年度	6年度	5年度	4年度	3年度
本部	▲177,036	▲209,998	▲214,991	▲194,656	▲169,912
介護老人福祉施設	48,046,066	45,069,263	47,032,542	40,498,564	45,615,514
短期入所生活介護事業	2,137,332	2,565,092	1,093,212	2,814,870	2,966,647
通所介護事業	10,478,094	15,957,748	▲497,785	▲5,651,780	▲6,905,597
認知症対応通所介護事業	7,226,824	8,258,053	1,963,486	▲1,444,956	▲2,194,632
訪問介護事業	10,944,313	5,542,166	4,676,789	▲1,713,033	▲2,500,180
地域包括支援センター事業	462,910	378,243	96,042	587,433	4,455,506
介護予防支援事業	▲713,082	31,470	242,631	365	▲76,554
居宅介護支援事業	7,349,599	6,511,627	6,618,419	4,199,249	8,065,798
合 計	85,755,020	84,103,664	61,010,354	39,096,056	49,256,590

④ サービス活動収益（収入）

（単位：円）

年 度	収益（収入）	前年度比増減
令和7年度	788,444,298	15,399,768
令和6年度	773,044,530	60,790,886
令和5年度	712,253,644	26,120,374
令和4年度	686,133,270	19,459,388
令和3年度	666,673,882	25,784,587

⑤ 人件費 (単位：円)

年 度	人件費	前年度比増減
令和 7 年度	511,517,328	14,002,626
令和 6 年度	497,514,702	30,742,542
令和 5 年度	466,772,160	6,480,348
令和 4 年度	460,291,812	9,444,973
令和 3 年度	450,846,839	5,552,489

⑥ 施設・施設整備等積立資金の推移 (単位：円)

年 度	前期末残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
令和 7 年度	354,790,000	84,580,000	0	439,370,000
令和 6 年度	268,990,000	85,800,000	0	354,790,000
令和 5 年度	205,020,000	69,690,000	5,720,000	268,990,000
令和 4 年度	195,169,600	51,150,000	41,299,600	205,020,000
令和 3 年度	170,479,600	45,790,000	21,100,000	195,169,600

⑦ 現況報告書に記載する「社会福祉充実残高」(原則計算)

年 度	社会福祉充実残高 (円)
令和 7 年度	▲455,220,000
令和 6 年度	▲427,470,000
令和 5 年度	▲469,470,000
令和 4 年度	▲487,180,000
令和 3 年度	▲568,110,000